

4 年次後期・選択

1 単位・15 時間

【概要・目的】

「患者が医療に求めているのは納得である。単なる治療では医学的情報と技術を与えることはできても納得は与えられない。納得を与えるのは看護である。正しい看護によって医療コミュニケーションが成立することができる。本講義では、医療の中での看護の意味を考える」

以上が、本学部設立時の本科目の理念である。これを尊重しながら、将来実践と研究に役立つ対人援助の対人コミュニケーション理論を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 医療従事者と患者との関係、医療スタッフ同士の対人関係、そして患者と家族・友人との関係を構築するのに必要なコミュニケーションの理論を応用できるようになる。
-

【内容・スケジュール】

- 1) 古代ギリシアの弁論術を現代のコミュニケーションに活用して説得する。我が身も守る。
 - 2) スピーチ・コード理論で、相手の琴線に触れる。
 - 3) 会話分析の理論を学んで、適切な「返し」の手がかりを掴む。
 - 4) 比喩の認知言語学で、相手に伝わる説明の工夫をする。
 - 5) ナラティブの理論で、人は何故自分の体験を話すかを知る。
 - 6) ポライトネス理論(中級篇)で、世渡りの術を磨く。
 - 7) ダイアレクティクス(弁証法)の発想で、対人関係の矛盾を整理する。
 - 8) パーソナル・コンストラクト理論で、話せる相手や話題を見つけ、関係を深める。
-

【評価】

1 通 24 点満点のショート・ペーパー課題、合計 4 通の合計 96 点満点に、授業への貢献度 4 点満点を加算して、100 点満点で絶対評価する。ショート・ペーパー課題は授業で学んだ内容を、現実の体験の分析に応用する練習課題であり、A4 用紙 1 枚に 1000-1200 文字程度で執筆するものである。学生は 5 通まで提出できるが、その場合は上位 4 通が成績に参入される。

【教科書】

追って指示する。(教科書は 2022 年刊行予定。「人間関係論」の増田担当分と共通。)

【推薦参考図書】

追って指示する。

【その他】

この授業の趣旨に合わせて、実務家による特別講義が開講される。本科目の一部という位置づけではないが、関連は深いので必ず受講すること。